

信州なかの魅力発信スペシャルアンバサダー
でインフルエンサーの中島侑子さん▼



フォトコンテスト総評（中島侑子さん）

今回のフォトコンテストの審査基準は「中野市の魅力が世界に伝わる作品や訪れたり、観たり、体験したりしてみたいくなる作品」でしたが、中野市愛や被写体への想いが伝わる素晴らしい写真がたくさんありました。写真を撮りそれを発信し始めると、「発信者」の視点で日々を過ごすようになり、いつもなら見逃していたような小さな景色に気付いたり、日常生活に彩りが増すと思います。そんな『わたしのなかの”なかの”～探す楽しみ、知る喜び～』を感じられるフォトコンテストでした。

現在、信州なかの魅力発信アンバサダーの皆さんは、中島さんを講師に、養成講座でInstagramを使った情報発信の成功例などを勉強中です。



アンバサダーの皆さんには土人形絵付け、やしょうまづくり、中野市産食品など、実際に体験してもらいInstagramに投稿してもらっています。

Instagramを使った 中野市 PR 始めてます

信州なかの魅力発信アンバサダーの皆さんに SNS
で中野市 PR を行ってもらっています。

アンバサダーのInstagram アカウント紹介

nakano.shiki_imo.koudaisei
y__yo_yo
mikio_isayama
kimagure_kazoku
pure_water_taro_hiromi
shintaro_sweets
torumitsuifarm
yuka.happy.life
habuka.shiori
komomo.takenouchi
troom.anti
oshimat72
nana.tabiiku
sawako_nakamura
hiro.21429
misochiki_imogawal
maruuu740
sunny_d_farm
sayumi.peony.wls25
maki.minemura
miyuki_matsui_meme
akemi_yasai_sommelier_pro
masafumiwatanuki
rose_fumio

中野市オリジナルグッズ できました！

中野市を内外両観点からみることが出来る移住者クリエイター2名がデザインを担当。オリジナルグッズは、市内外のイベントなどでPR用として配布します。

①コンセプト: THE HOMETOWN OF "FURUSATO"
(「故郷」のふるさと)

デザイン: 相子靖子・結文舎

②コンセプト: ちょうどいい田舎=住みよい市
デザイン: 中川千恵子・結文舎



①シティプロモーション用
オリジナルトートバッグ



②移住促進用オリジナル
クリアファイル



File: 20



シティプロモーション案をどんどん作っていますよ

今月の協力隊員 渡辺 菊男 隊員
問 庶務課 ☎ 22-2111 (内線 212)

できることからコツコツと

地域おこし協力隊として中野市に戻り、シティプロモーションを担当して間もなく9か月になります。故郷に貢献したいという気持ち、市民一人ひとりに納得してもらえる結果を出さなければならないという気持ち、そして自分も変化しなければならないという気持ちが逡巡しています。ただ、関わっていただいた方々の甚大なご協力で、今年1月、全日空ファーストクラスでの中野市産リンゴの提供が実現しました。現在は、主な観光地での6カ国語案内パンフレットを作成しています。また、「市民向けの市内観光ツアー」も企画し、市民が自慢できる情報を発信し、中野市ファンのさらなる獲得を目指します。「まずは、できることから！」具体化していきたいと思います。



1



2



3

- 1_ 観光地6カ所の6カ国語パンフレットを作成中。
- 2_ 1月に全日空ファーストクラスへ中野市産リンゴを提供。
- 3_ 市内観光ツアーを信州なかの魅力発信アンバサダーの皆さんに体験してもらいました。



池田市長の vol.71 わくわくレポート

SNSと地域情報発信

SNS (Social Network System) の発展は私たちの暮らしに劇的な変化をもたらし、情報の受け手でしかなかった個人が趣味や嗜好、地域情報などのさまざまな情報を発信できるようになった。限定的で一方的な情報ではなく、一人ひとりが自由に感想や物事の評価を発信することにより、幅広い見地からの情報を入手することも可能となった。ただし、人は自分と思いを同じくする人の意見や考えを共有することにより安心感を覚えるため、居心地の良い情報だけを求め、偏る場合もあることを忘れてはならない。

しかしながら、景観や食などの観光につながる情報や、趣味や嗜好を共有する人々の情報交換は、暮らしの幅を広げ、行動にも影響を与える。ちな



◀ 定例記者会見の様子なども動画配信アプリの利用で、簡単に閲覧できる時代である

みに、私も、食や観光情報は、まずは体験談に目を通す。行ってみたい、食べてみたい、参加してみたい、といった行動を呼び起こすのは、やはり情報に触れることから始まる。今日、情報はいつでも取りに行けるし、ちょっとSNSで工夫をすれば自然と集まってくる仕掛けも可能だ。

なかでも、文字情報以上に情報量を多く含むのは画像や映像の情報だ。願わくば香りが出てくるようなシステムがあればと思うのだが、楽しさを想像する余地を残しておくことも大切だ。さまざまな市民や人を介して、わが中野市の情報が広く発信されることを大いに期待したい。